

R E P O R T

初めてのコンサート
きっと忘れない!

車いすを使う中高生を迎え、 室内楽コンサートを開催しました。

CMGスペシャル『車いす利用者のための室内楽演奏会』

～東京都立特別支援学校の方々を迎えて～

2013年6月13日(木) 11:30開演

この公演は、昨年9月にサントリーホールで開催された「ストラディヴァリウス・コンサート
(主催:読売新聞社、特別協力:日本音楽財団)」からの寄付金を用いて開催しました。

サントリーホールは、コンサートホールで生の演奏に触れて楽しむ機会が少ない、車いすを利用する中高生をブルーローズ(小ホール)に迎えて、室内楽コンサートを行いました。



出演したのは、選曲も担当したヴァイオリニストの渡辺玲子と、ピアノの林絵里、チェロの堤剛。今回、東京都立光明特別支援学校(世田谷区)の中・高校生を中心に、卒業生、保護者や付き添いを含めた計約50名が、世界最高レベルの室内楽の響きを楽しみました。

ヴァイオリンを携えてステージに立った渡辺はまず、「これから演奏する曲の共通テーマは“ダンス”です。皆さん、どうか自由に体を動かして楽しんで聴いてくださいね」と呼びかけ、ちょっと緊張していた気持ちをほぐすところからスタート。演奏中にはリズムをとって手拍子をしたりするなどリラックスした様子も見受けられました。また、楽器の紹介の際に渡辺が「こんな変わった音も出ますよ」とヴァイオリンの多彩な音色を鳴らすと、客席にワッと歓声が。ステージと客席との距離が近いブルーローズの特性を生かした進行もあって、この日は特に演奏者と聴衆とが近づいたようでした。ファリャ、ショパン、バッハ…そしてベートーヴェンまで、キラ星のごとき8曲の演奏に真剣な表情で聴き入り、1曲1曲に大きな拍手を送っていました。演奏を終えた渡辺は、「今日はおお客様とのコミュニケーションがとてまうまくいったので、すごく弾きやすい演奏会でした。ありがとうございました」と挨拶。生徒のひとり(高校2年生・男子)は「コンサート会場で生演奏を聴くのは初めて。ショパンの『子犬のワルツ』がよかった。こういう機会があったらまた来たい」と語っていました。